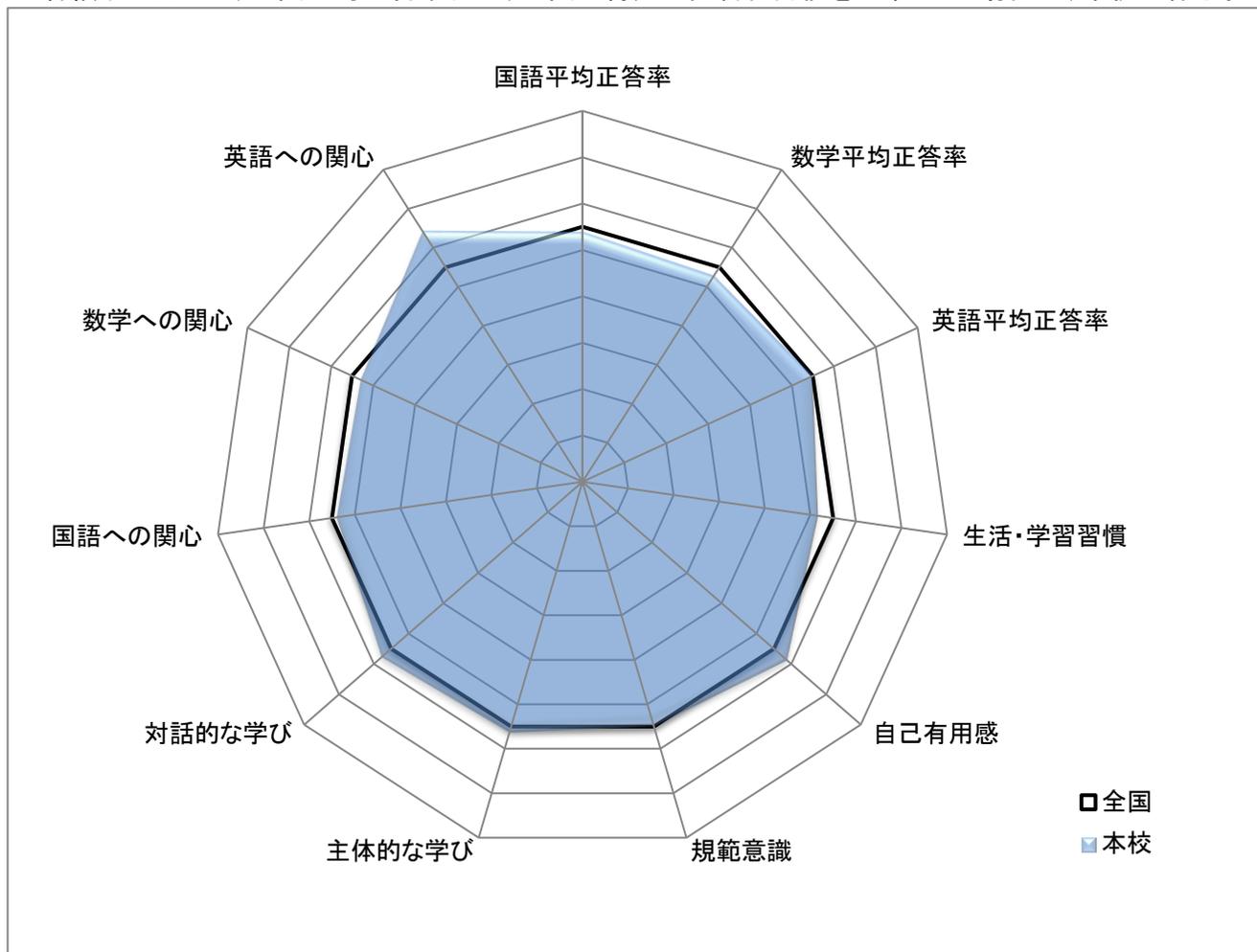


●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《現状把握》

【国語】「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域は概ね全国の平均値前後である。話し合いの中で相手にわかりやすく伝える発言方法を問う問題を得意とする生徒が多かった。

【数学】「図形」領域の正答率が高く、記述式の4問についても全国平均を上回った。課題は数学的な技能を問う問題、特に関数を苦手とする傾向がある。

【英語】「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の領域全てのバランスが取れている。特に「聞くこと」「外国語理解の能力」が高い。選択式・短答式を得意としているが、記述式に課題がある。

《授業改善のポイント》

【国語】単元ごとの「200字・400字意見文」及び作文指導に力を入れてきたことが書くことについての結果に繋がっている。「読む力」を伸長するために新聞やコラムなどの情報を読み解く学習の機会を設定していく。

【数学】「図形」を得意とする生徒が多い一方、「関数」に苦手意識を持つ生徒が多い。そこで、

【英語】全国平均を上回っている「聞くこと」の領域、外国語理解「知識・理解」の項目に比して、「外国語表現の能力」を苦手とする生徒がいる。特に記述式の問いに対する正答率に課題があるので、

《チャートの特徴》

三教科の正答率では、国語と数学は全国平均をわずかに下回っている(全国を1とした場合、国語は0.98、数学は0.95)が、英語は全国平均と並んでいる。特に、「英語への関心」は全国平均を大きく上回っている。中でも「英語の勉強は大切だと思うか」では95.2%もの生徒が肯定的回答をしている。また「英語の授業はよく分かるか」90.4%、「英語の授業の学習は将来、社会に出たとき役に立つと思うか」91.1%と極めて高い肯定感となっている。また「自己有用感」も全国平均を上回っている。特に「先生は、あなたのようにと認めてくれるか」の項目が87.0%とたいへん高い結果となっている。課題としては「生活・学習習慣」の項目であるが、「朝食」「起床」の習慣は90%前後なのに対して「家で自分で計画を立てて勉強をしているか」の項目のみ42.5%であり今後の課題となっている。

《家庭・地域への働きかけ》

本校は学校全体の取り組みとして月一回授業ビデオによる授業検討会を全学年で実施している。「4人グループ学習」「共有の課題」「ジャンプの課題」の充実を中心とするこの授業力向上と生徒の学習意欲の向上への取り組みを『学校だより』や保護者会などで発信するとともに、教育活動への信頼を向上していく。